

森林の新たな価値の創出に向けた地域支援 ～神流町における取組～

1 テーマの趣旨・目的

群馬県森林・林業基本計画 2021-2030 では、基本方針の1つとして「森林の新たな価値の創出」を掲げており、従来のような木材資源を供給すること以外に、新しい森林・林業の価値を見出し、ビジネスに結びつける視点が必要である。こういった新規分野に対して意欲や考えを持ち、先進的に取組む地域また人材は貴重であり、このような人たち、また地域の考えを理解し、相手から学び、主体性を大切にしながら継続的にサポートすることは、地域で活動する林業普及指導員の重要な役割である。

今回、森林の新たな価値の創出に向け、群馬県多野郡神流町において林業普及指導員の取り組んだ支援の内容について報告する。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

神流町は群馬県の南部に位置する、人口約1500人、高齢者比率約64%の小さな自治体であり、豊かな森林資源が町の面積の約9割を占めている。近年、町内林業は、鳥獣被害の拡大や高齢化による林業労働力不足等も重なり、林業低迷の加速化や、森林の公益的機能の低下が懸念されている。

このような中、神流町では、平成28年度に始動した「神流町林業再生プロジェクト」により、町、森林組合、県など関係機関が連携して、林業を基盤とした神流町の発展を目指してきた。人材、森林基盤整備、安定供給体制、木質資源利用、森林空間活用の5部会により取組を進め、令和2年度には、素材生産量を増やし森林資源を最大限に活用するため、木材流通拠点として神流町

麻生木材ヤードを整備した。また、プロジェクトのうち「森林空間部会」の取組は森林空間そのものの利用という新しいチャレンジであり、これが継続・発展して、現在の森林空間活用イベントや、森林資源の木質アロマ活用に繋がっている。

神流町は現在、町内の神流振興合同会社とともに地域ブランドである「神流杉」「神流檜」のPRに努め、町内建築物への利用や情報発信を積極的に進めている。また、今まで伐採後に捨てられていた枝葉や端材なども、余すところなく丁寧に使い切ることを大切にして、木材加工品や精油を活用した加工品などの開発を進めている。



写真1 「神流杉」「神流檜」を活用した、香り袋、アロマ製品、八角折箱

令和5年度には町産材のPR拠点「神流フォレストベース」が町内に整備された。令和7年度にはフォレストベース内に屋内施設が完成し、地域ブランドの発信拠点として、森林・林業に触れる様々な場面での活用が期待できる。

神流町は、多くの森林に関わる素材や拠点をもち、この町にしかない森林の新たな魅力創出に挑戦し続けているが、これを推進するにあたり課題も持ち合わせている。



写真2 神流フォレストベースの全景

・課題1 人材の確保

高齢化が進む町内では、林業現場で働く技術者をはじめとして、新たな働き手を確保することは容易ではない。このような中で、森林の新たな価値を創出する視点で活動の中心となる人材を確保することは重要である。

・課題2 地域活動としての継続と定着

新しい商品の試作や試行販売、森林空間を活用した体験イベント等が企画・実施されているが、継続性を持って実施されるまでに至っていない。地域の取組として継続するよう、活動を定着させる必要がある。

(2) 取組

林業普及指導員は、神流町の取組に対し、地域の意見に耳を傾け側方支援に徹することを心がけ、以下の方向性を持ちながら支援を行った。

- ・ 地域で主体的かつ継続的に活動のできる人材を確保する
- ・ 核となる人材の主体性を尊重し、活動の方向性や展開方法を話し合う
- ・ 活動が地域の取組として定着し、森林の新たな価値が、地域全体の利益また林業振興に繋がることを重視する

具体的な取組は以下のとおり。

① アロマ蒸留器の導入とデモ体験会開催

森林の空間活用や木質アロマとしての活用によって神流町の振興に寄与したいという人材（山田美香氏）との出会いをきっかけに、神流町で活動を展開させるために何ができるか考えるところから、林業普及指導員の支援が始まった。

令和4年度に県の普及事業でアロマ蒸留器を導入し、山田氏を中心として、町と林業普及指導員が共に樹木の葉から精油精製する仕組みを学んだ。



写真3 アロマ蒸留器

令和5年3月には、町内で

「森林セルフケア体験プログラム アロマデモ体験会」を開催し、神流町、関係者や普及員がともにプログラム企画や体験会の運営に当たった。

② 各種イベントでの神流杉・神流檜のPR

令和5年度には東京MOCTIONへ出向き視察を実施。令和5年度～6年度にかけて、アロマ関連商品を活用して、神流森の市ほか、県内外の各種イベントで神流杉・神流檜のPRを行った。

③ 地域団体「あなたと森の物語」設立

地域の森林整備の活動主体となる組織として令和6年6月に「あなたと森の物語（山田美香代表）」が設立された。林業普及指導員は、立ち上げにあたり、団体の活動方針検討や規約作り等、細部調整について支援した。



写真4 あなたと森の物語 設立総会の様子

④ 活動拠点「アロマと癒しの森」整備

神流町の森林空間を活用したサービスや、精油材料の採取ができるフィールドを提供するた

め、あなたと森の物語が中心となり「アロマと癒しの森」の整備を進めている。林業普及指導員は、現地踏査や測量作業による対象エリアの全体像の洗い出しを行い、今後の整備の足がかりとなる基礎資料作成を支援した。

⑤ 研修会等の実施、受け入れ

- 令和4年度に実施したデモ体験会をモデルとして、令和6年9月に、神流町をフィールドとして、国、県の林業関係職員が新たな森林利活用の取り組みについて学ぶ研修会を開催した。



写真5 国・県の若手職員を対象とした研修会の様子

- 町の森林資源や木材関連施設に関心を持ったVUILD株式会社と神流町が連携し、令和7年3月に首都圏の建築業界設計者を対象としたモニターツアーを開催し、林業普及指導員も運営に従事した。多くの参加者が集まり、神流町の林業と木材利用までの流れを体感し知っていただく時間を提供した。

(3) 成果

- 令和4年度のアロマ蒸留器の貸与を起点として、神流町でアロマデモ体験会を開催したことにより、その後の研修会等受け入れの裾野が広がった。町の森林林業や新たな取り組みについて発信し、多くの人に知ってもらうきっかけとなった。
- 地域団体の設立と活動フィールドの整備により、今後、林業に関連する各取組が地域に根付いたものとなることを期待できる。
- モニターツアーの実施においては、今までつ

ながりの無かった建築業界の方々に山間部の森林・林業を知ってもらおうと共に、C材等の利用の可能性など、林業界とは異なる目線の意見を聞くことができた。

(4) 課題

- 町の課題である「働き手が少ない」中でも、事業展開し、継続する、ビジネススタイルの構築。事業の企画運営について、3月に実施したモニターツアーのように外部企業の力を借り運営委託する形も検討が必要である。
- 新たに整備した神流フォレストベースが、地域ブランド、また、町の森林林業の魅力発信拠点となるよう、具体的な取組や効果的PR方法を検討する必要がある。

3 今後取組むべき内容

地域主体の取り組みへの伴走支援を継続するにあたり、神流町と、町内設立団体「あなたと森の物語」、県林業普及指導員など、関係機関で連携していく必要がある。神流町の地域ブランドや新商品のほか、森林空間そのものを活かしたサービスなど、町の森林・林業には個々の魅力があるため、これを引き出し、ビジネスとして発展するよう支援する。

また、今後は林業のみならず観光分野との連携等も視野に入れて、県内の取組や関連事業の情報提供などを行い、地域の稼ぐ力の底上げとなるよう地域振興を支援する。